

青山学院大学
ジェロントロジー研究所年報

第5巻

2022年度

目次

| | |
|-------------|----|
| 目次 | 2 |
| 巻頭言 | 3 |
| 講演会 | 4 |
| 平田 普三 | 5 |
| 井上 孝 | 10 |
| 塩澤 友規 | 12 |
| 日置 俊次 | 14 |
| 米山 聡 | 15 |
| 栗原 陽介 | 18 |
| ロペズ ギョーム | 22 |
| 佐藤 敏彦 | 24 |
| 石井 慶子 | 26 |
| 竹下 啓 | 30 |
| 佐野 智子 | 32 |
| 長田 久雄 | 34 |
| 平井 誠 | 35 |
| 井上 希 | 36 |
| 朝倉 匠子 | 38 |
| 大西 典子 | 40 |
| 及川 麻衣子 | 42 |
| 五十嵐 靖博 | 44 |
| 大野 淑子 | 46 |
| 永松 俊哉 | 47 |
| SAM (丸山 正温) | 48 |

巻頭言

多くの人に不幸な死を招いたパンデミックは、在宅勤務やオンライン会議に代表される新しい社会システムの定着や情報通信インフラの普及をもたらしました。それらが高齢者を取り巻く環境を変え、ひいてはジェロントロジーの新分野発展に寄与したことは皮肉なことです。この1年で新型コロナウイルスへの対応は大きく変わり、ついにコロナ禍の出口を見据えられるようになりました。しかし、感染症との共存を構築する中でも、日本の高齢化が歩みを止めることはなく、ポストコロナ時代のジェロントロジーが何を目指すかが今まさに問われています。

青山学院大学ジェロントロジー研究所は2018年4月の発足から、今月で満5年をむかえました。研究・教育・啓発・広報の4事業を活動の柱として、地道な活動を続けてまいりました。2022年度は佐藤敏彦博士とSAM氏の新規参画を得て、高齢者の健康増進の実践研究を新基軸として開始しました。ジェロントロジーの学際性を活かした共同研究は数多くの論文や書籍、あるいは学会発表等として公開されました。研究所メンバーで担当する青山学院大学の教養向け講義「ジェロントロジーと諸科学」は心と体の健康や社会の持続的発展を学ぶ学際科目として、広く学生の支持を得るに至りました。啓発事業としては、ウィズコロナの中にあっても一般向け講演会を開催しました。広報はホームページに限らず、さまざまなメディアで情報を発信し、ジェロントロジーを知っていただくことに努めました。ここに2022年度のジェロントロジー研究所の活動報告を公開し、研究所成果を紹介いたします。

2023年3月

所長 平田 普三

講演会

連続講演会第7回「地域包括ケアと美齢学」

日時：2022年12月11日（日）10:00-11:30

場所：青山学院大学17309大教室（青山キャンパス17号館3階）

講演者：宮島 俊彦 氏（日本製薬団体連合会・理事長）

形式：対面

開催報告：<http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/activities/activities-report221220/>



講演会の様子

平田 普三

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_-leader/

研究成果の概要

ゼブラフィッシュをモデルとした老化の研究を実施している。若齢個体と経年老化個体を比較して、運動能力と筋肉量を定量解析することで、ヒトのサルコペニアやロコモティブシンドロームあるいはフレイルを動物で再現することに成功している。また、遺伝子操作で早老する個体を作製しており、これらを用いて老化に特徴的な遺伝子発現プロファイルを得つつある。老化の前段階で起こる遺伝子発現の変化から老化を予測する指標ができると考えている。

学術論文

1. Ogura, Y., Uehara, T., Ujibe, K., Yoshihashi, H., Yamada, M., Suzuki, H., Takenouchi, T., Kosaki, K., and Hirata, H.* (2022) The p.Thr395Met missense variant of NFIA found in a patient with intellectual disability is a defective variant. *Am. J. Med. Genet.* 188A: 1184-1192.
2. Kashima, M., Kamitani, M., Nomura, Y., Hirata, H. and Nagano, A. J. (2022) DeLTa-Seq: direct-lysate targeted RNA-Seq from crude tissue lysate. *Plant Methods.* 18: 99, 1-18.
3. Reid, K. M., Spaul, R., Salián, S., Barwick, K., Meyer, E., Zhen, J., Hirata, H., Sheipouri, D., Benkerroum, H., Gorman, K.M., Papandreou, A., Simpson, M. A., Hirano, Y., Farabella, I., Topf, M., Grozeva, D., Carss, K., Smith, M., Pall, H., Lunt, P., De Gressi, S., Kamsteeg, E.-J., Haack, T. B., Carr, L., Guerreiro, R., Bras, J., Maher, E. R., Scott, R. H., Vandenberg, R. J., Raymond, F. L., Chong, W. K., Sudhakar, S., Mankad, K., Reith, M. E., Campeau, P. M., Harvey, R. J. and Kurian, M. A. (2022) MED27, SLC6A7, and MPPE1 variants in a complex neurodevelopmental disorder with severe dystonia. *Mov. Disord.* 37: 2139-2146.

書籍出版

4. 平田普三。「感覚と応答の生物学」第9章運動の発達・第10章聴覚応答とその可塑性。NHK出版。2023年3月20日。

招待公演

5. 平田普三。ゼブラフィッシュを用いた毒性比較。令和4年度医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の安全性評価に用いる動物試験代替法の開発、評価及び標準化に関する研究」班会議。オンライン。2023年3月16日。
6. 平田普三。毒性比較におけるゼブラフィッシュの系統差。令和4年度医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の安全性評価に用いる動物試験代替法の開発、評価及び標準化に関する研究」生殖発生毒性グループ班会議。オンライン。2023年2月15日。
7. 平田普三。ゼブラフィッシュでの TIAL1, PIGK 遺伝子の解析。日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業 J-RDMM モデル生物コーディネーティングネットワークによる希少・未診断疾患メカニズム解析。東京コンファレンスセンター品川（東京）。2023年1月13日。
8. 平田普三。ゼブラフィッシュの毒性比較における系統差。令和4年度医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の安全性評価に用いる動物試験代替法の開発、評価及び標準化に関する研究」生殖発生毒性グループ班会議。オンライン。2022年8月19日。
9. 平田普三。クローン作製と iPS 細胞。青山学院大学オープンキャンパス。青山学院大学相模原キャンパス（相模原）。2022年7月10日。
10. 平田普三。見えるとはどういうことか。青山学院大学オープンキャンパス。青山学院大学相模原キャンパス（相模原）。2022年7月10日。
11. 平田普三。判断と行動のプログラム。青山学院大学市民大学講座。青山学院大学相模原キャンパス（相模原）。2022年7月9日。
12. 平田普三。ゼブラフィッシュの系統と毒性比較。令和4年度医薬品等規制調和・評価研究事業「医薬品等の安全性評価に用いる動物試験代替法の開発、評価及び標準化に関する研究」生殖発生毒性グループ班会議。オンライン。2022年6月15日。

学会発表

13. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。ウェルナー早老遺伝子 *wrn* の欠損はゼブラフィッシュの臍臓に異常を起こす。日本動物学会関東支部第75回大会。明治大学生田キャンパス（川崎）。2023年3月18日。
14. 手塚剛史、貞光謙一郎、遠藤瑞季、松尾卓也、渡井健太、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュの *cbfa2t2* 変異体は泳動の際に頻繁に方向転換する。日本動物学会関東支部第75回大会。明治大学生田キャンパス（川崎）。2023年3月18日。
15. 渡井健太、貞光謙一郎、手塚剛史、松尾卓哉、鹿島誠、平田普三。変異体スクリーニングによるゼブラフィッシュ運動異常変異体の単離。日本動物学会関東支部第75回大会。明治大学生田キャンパス（川崎）。
16. Hirata, H., Ogura, Y., Kaneko, R., Ujibe, K., Wakamatsu Y. and Kashima, M. Loss of alpha-klotho causes reduced motor capability and short lifespan in zebrafish. 日本比較生理生化学会第44回高知大会。高知県立県民文化ホール（高知）。2022年11月26日。

日。

17. Kashima, H., Kashima, M and Hirata, H. Functional analysis of sex-determination-related genes in zebrafish. 日本比較生理生化学会第44回高知大会。高知県立県民文化ホール（高知）。2022年11月26日。
18. Anzai, M., Kashima, M and Hirata, H. Functional hybrid receptor composed of GlyR and GABAAR subunits. 日本比較生理生化学会第44回高知大会。高知県立県民文化ホール（高知）。2022年11月26日。
19. 酒井則良、Fabien Vellia、新屋みのり、貞光謙一郎、鹿島誠、平田普三。20世代以上の兄妹交配によるゼブラフィッシュの近交系。第8回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会。青山学院大学（東京）。2022年11月15日。
20. 小林麻己人、前田浩樹、玉置隼也、平田普三、鹿島誠。ゼブラフィッシュとヒトのヘモグロビン切替機構は共通か？。第8回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会。青山学院大学（東京）。2022年11月15日。
21. 貞光謙一郎、鹿島誠、石岡亜季子、中山里実、中山涼子、岡本仁、平田普三。全ゲノムシーケンスを用いたゼブラフィッシュ野生型系統の多様性評価。第8回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会。青山学院大学（東京）。2022年11月14日。
22. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。膵臓の異常はゼブラフィッシュにおける新たな個体老化マーカーになる。第95回日本生化学会大会。名古屋国際会議場（名古屋）。2022年11月9日。
23. 保坂美朋、鹿島誠、平田普三。多検体時系列RNA-Seqを用いたプラナリアの再生プロセスの観察。NGS EXPO 2022。大阪府立国際会議場（大阪）。2022年10月19日。
24. 平田普三。青山学院大学ヘルスイノベーション事業の展開。BioJapan2022。パシフィコ横浜（横浜）。2022年10月14日。
25. 滝嶋遼、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュの運動を指標にしたてんかん治療薬のスクリーニング。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
26. 滝嶋遼、山崎裕之、鹿島誠、佐藤彩人、平田普三。遊走性焦点発作を伴う乳児てんかんの疾患モデルゼブラフィッシュを使った抗てんかん治療薬のスクリーニング。第55回日本てんかん学会学術集会。仙台国際センター（仙台）。2022年9月21日。
27. 松澤亮輔、川原大知、鹿島誠、平田普三、尾嶋遼。複数の1次元遺伝子発現空間分布から3次元遺伝子発現空間分布を再構成するツールの開発。2022年日本バイオインフォマティクス学会年会・第11回生命医薬情報学連合大会。2022年9月14日。
28. 鹿島誠、西村加奈子、池城ひとみ、鹿島瞳、平田普三。時系列一遺伝子RNA-Seqで迫るゼブラフィッシュにおける非遺伝的性決定。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
29. 氏部浩太、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュにおける早老遺伝子 *wrn* の欠損は膵臓異常を引き起こす。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
30. 滝嶋遼、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュの運動を指標にしたてんかん治療薬のスクリーニング。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。

31. 河村嶺、鹿島誠、平田普三。成体多能性幹細胞の制御メカニズム解明に向けたケミカルスクリーニング。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
32. 松尾卓哉、鹿島誠、平田普三。運動機能異常を示す変異体のスクリーニング及び原因遺伝子の同定。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。（
33. 鹿島瞳、西村加奈子、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュにおける性決定遺伝子の探索。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
34. 山崎裕之、滝嶋遼、鹿島誠、武藤彩、川上浩一、平田普三。Ca²⁺ imagingによる抗てんかん薬の作用検証。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
35. 手塚剛史、松尾卓也、貞光謙一郎、渡井健太、鹿島誠、平田普三。運動に必要かつ神経系ではたらく遺伝子の探索。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
36. 小俣和輝、小塩未侑、鹿島誠、平田普三、加藤尚志。エリスロポエチン刺激によるツメガエル成熟赤血球の核形態の変化。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月10日。
37. 貞光謙一郎、遠藤瑞季、鹿島誠、平田普三。触刺激応答異常を示すzebrafish 変異体の原因遺伝子の同定と評価。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月8日。
38. 金子遼司、鹿島誠、平田普三。ゼブラフィッシュの骨格筋および運動能力の解析によるサルコペニアモデルの確立。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月8日。
39. 安西美玖、鹿島誠、平田普三。GlycineとGABAの両方に応答する受容体の探索。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月8日。
40. 保坂美朋、鹿島誠、平田普三。時系列一細胞RNA-Seqによるプラナリアの再生プロセスの観察。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月8日。
41. 伊東正剛、谷ヶ崎博、森岡一朗、鹿島誠、平田普三、加藤尚志。RNA-Seqに向けたアフリカツメガエル大腿骨のRNA抽出方法の確立。日本動物学会第93回早稲田大会。早稲田大学（東京）。2022年9月8日。Sadamitsu, K., Kashima, M., Shinya, M., Ashida, H., Ishioka, A., Nakayama, S., Nakayama, R., Okamoto, H., Sakai, N. and Hirata, H. Wild-type lines and new inbred strains of zebrafish evaluated by whole genome sequencing. 第28回小型魚類研究会。国立循環器病研究センター（吹田）。2022年9月1日。
42. Tezuka, T., Sadamitsu, K., Endo, M., Matsuo, T., Watai, K., Kashima, M. and Hirata, H. A zebrafish motor mutant that shows frequent changes of swimming direction. 第28回小型魚類研究会。国立循環器病研究センター（吹田）。2022年9月1日。
43. Yamazaki, H., Takishima, R., Kashima, M., Muto, A., Kawakami, K. and Hirata, H. Screening for antiepileptic compounds by calcium imaging. 第28回小型魚類研究会。国立循環器病研究センター（吹田）。2022年9月1日。

44. 八十島左京、樋口愛菜、保坂美朋、佐々木一款、小岩純子、白水崇、鹿島誠、平田普三、西村有平。放射線照射したゼブラフィッシュ仔魚の顎形成不全に対する葉酸の保護作用機構解析。第62回日本先天異常学会学術集会。金沢市文化ホール（金沢）。2022年7月30日。
45. Ujibe, K., Kashima, M. and Hirata, H. Analysis of a Werner syndrome mutant model in zebrafish. The 17th International Zebrafish Conference. Centre Mont-Royal, Montreal, CANADA. 2022年6月24日。
46. Ujibe, K., Kashima, M. and Hirata, H. Loss of wrn, premature aging gene, affects pancreatic development in zebrafish. 第55回日本発生生物学会大会。2022年6月2日。
47. Hosaka, M., Kashima, M. and Hirata, H. Transcriptomic landscape during regeneration revealed turning point of anterior-posterior information in a planarian, *Dugesia japonica*. 第55回日本発生生物学会大会。2022年6月2日。
48. Kashima, M., Shida, Y., Yamashiro, T., Hirata, H. and Kurosaka, H. Intercellular and intracellular gene regulatory networks inference with individual-difference correction from time-course bulk RNA-Seq of whole embryo. 第55回日本発生生物学会大会。2022年6月2日。

社会活動・学外の委員活動等

49. Hirata, H. International Zebrafish Society Award Committee. 2023年1月～。
50. 平田普三。ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会組織委員。2020年12月～。
51. Hirata, H. Genes Editorial Board. 2020年9月～。
52. Hirata, H. Frontiers in Molecular Neuroscience Associate Editor. 2020年7月～。
53. 平田普三。文部科学省主催サイエンス・インカレ審査委員。2019年9月～。
54. Hirata, H. Scientific Reports Editorial Board. 2019年7月～。
55. 平田普三。日本生化学会評議員。2018年9月～。
56. 平田普三。ナショナルバイオリソースプロジェクト（ゼブラフィッシュ）運営委員長。2017年4月～。
57. Hirata, H. Journal of Biological Chemistry (JBC) Editorial Board Member. 2016年7月～。
58. 平田普三。公私立大学実験動物施設協議会代議員。2016年4月～。
59. 平田普三。ナショナルバイオリソースプロジェクト（ゼブラフィッシュ）運営委員。2010年9月～。
60. Hirata, H. International Zebrafish Conference (IZFC17) Organizer. 2021年9月～2022年8月。

メディア報道

61. ゼブラフィッシュ・メダカを創薬に活用する研究会が開催。日経バイオテクオンライン。2022年9月28日。

井上 孝

所属：青山学院大学経済学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_1/

研究成果の概要

今年度の最大の研究成果は、米国版の小地域別将来人口推計マッピングシステム The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the US (SAPP for the US) を構築・公開したことである。このシステムは、米国の著名なオンラインデータベースである IPUMS の NHGIS のデータを利用し、2022～57年までの5年ごとの全米における小地域別男女5歳階級別推計人口を算出・公開している。この推計にあたっては、井上が開発した手法が用いられている。他の研究成果としては、オーストラリア版のシステム開発に向けた準備を進め、2023年度中の公開の目処が立った。

学術論文・著書・分担執筆・ウェブサイト等

1. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関する Web データベース IPUMS について (第 6 回) —IPUMS GLOBAL HEALTH(IPUMS-PMA)の概要—。『ESTRELA』, 第 334 号
2. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関する Web データベース IPUMS について(第 7 回)—IPUMS NHGIS の概要—。『ESTRELA』, 第 336 号
3. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関する Web データベース IPUMS について(第 8 回)—IPUMS IHGIS の概要—。『ESTRELA』, 第 338 号
4. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関する Web データベース IPUMS について (第 9 回) —IPUMS TIME USE の概要—。『ESTRELA』, 第 340 号
5. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関する Web データベース IPUMS について (第 10 回) —IPUMS HEALTH SURVEYS の概要—。『ESTRELA』, 第 342 号
6. 井上 希・小池司朗・井上 孝, 2022, 人口等のマイクロデータに関する Web データベース IPUMS について (第 11 回) —IPUMS INTERNATIONAL の現状と課題—。『ESTRELA』, 第 344 号
7. Takashi Inoue, The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the US. (<https://onl.la/HfU9yPZ>) Ver.1.0 新規公開

シンポジウム・講演・学会発表等

8. 井上 孝, 日本の生涯人口移動データを用いた再移動のランダム性について. 国立社会保障・人口問題研究所人口移動調査分析研究会
9. 井上 孝, 日本の生涯人口移動データを用いた再移動のランダム性について—再移動性指数の再検討—. 2022年度日本人口学会大会 (神戸大学)
10. Inoue, T. and Inoue, N., The Patterns of Population Change by Station Area along Private Railway Lines in the Western Suburbs of Tokyo: The Period of 2015-2065. International Conference on Population Geographies 2022 Tokyo (online)
11. Inoue, T., On the Construction of the Web Mapping System of Small Area Population Projections for the US. Southern Demographic Association 2022 Annual Meeting, Knoxville, US

主な社会活動・学外の委員活動等

12. 日本人口学会副会長
13. 人口学研究会理事
14. 国立・社会保障人口問題研究所研究評価委員
15. The International Conference on Population Geographies 2022 Tokyo, co-chair

メディア出演・その他

16. 井上 孝, 第3次ベビーブームはまぼろしだった 識者インタビュー<5> 井上孝・青山学院大学教授 [迫る人口急減社会2023]. 読売新聞オンライン (<https://www.yomiuri.co.jp/life/20230118-OYT8T50003/>)
17. 井上 孝, 「全国小地域別将来人口推計システム」日本語版 (<http://arcg.is/1LqC6qN>) Ver.3.0 公開中
18. Inoue, T., The Web System of Small Area Population Projections for the Whole Japan (<http://arcg.is/1GkdZTX>) Ver.3.0 公開中
19. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for the State of Washington (<http://arcg.is/2s5i2Vk>) Ver.1.0 公開中
20. Inoue, T., The Web Mapping System of Small Area Population Projections for Taiwan (<http://arcg.is/1rCPmm>) Ver.1.0 公開中

塩澤 友規

所属：青山学院大学経営学部・教授

経歴等：<https://raweb1.jm.aoyama.ac.jp/aguhp/KgApp?kyoinId=ymiigsodggy>

研究成果の概要

高齢者の視線運動の解析を行い、学会発表、論文発表等を行った。具体的には、人工知能を使用して 3D ビデオ クリップを見ているときの若者と高齢者の視線運動の比較、VR を用いた感覚のずれを軽減するトレーニングシステムの開発と評価、視線運動を分類するための統計的機械学習に関する研究、AR を利用した感覚不一致を軽減させるトレーニングシステムの開発およびその評価等を行った。大学教職員や学生を対象とする COVID-19 に対する意識と行動、心理的影響、に関する研究成果について、全国大学保健管理研究集会にて発表し、加えて論文執筆を行った。これらは、厳密には高齢者を対象としたものではないが、得られた結果は、高齢者に応用可能なものであった。この他、高齢者医療制度等を含む社会医学系に関する医師国家試験問題解説書を執筆した。その他、下記各種学会役員を担当した。

学術論文・著書・分担執筆

1. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試 117-第 117 回医師国家試験問題解説書. 東京: TECOM; in press.
2. Itazu Y, Takada H, Shiozawa T. Comparison of radial motions in the young with those in the elderly while viewing 3D video clips using artificial intelligence. In: Shiozawa T et al. Gerontology as an Interdisciplinary Science. Current Topics in Environmental Health and Preventive Medicine. Singapore: Springer Nature; in press.
3. Itazu Y, Matsuura Y, Shiozawa T, Takada H. A study for statistical machine learning to classify radial motions. *Forma* 37, 17-27, 2022.
4. Jin Z, Tsukamoto K, Usami Y, Sugai H, Miyao M, Shiozawa T, Takada M, Ito K, Takada H. Development and evaluation of training system for reducing sensory discrepancies using VR. *Proc. IEEE ICCSE 2022*, 169-173, 2022.
5. 高田宗樹, 宮尾 克, 塩澤友規, 高田真澄, 伊藤菊男. ARを利用した感覚不一致を軽減させるトレーニングシステムの開発およびその評価. *デサントスポーツ科学*, 62-70, 2022.
6. 松本さゆり, 稲垣 中, 阿部和子, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 丸山由衣, 松廣綾, 塩澤友規, 小蘭康範, 五味慎太郎. 新型コロナウイルスが大学生に及ぼす心理的影響について. *CAMPUS HEALTH*, 59, 87-89, 2022.

7. 松本さゆり, 稲垣 中, 阿部和子, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 丸山由衣, 松廣綾, 塩澤友規, 小菌康範, 五味慎太郎. 大学生の新型コロナウイルス感染症対策に関する意識と行動. CAMPUS HEALTH, 59, 306-307, 2022.
8. 塩澤友規 他. In: 医師国家試験問題解説書編集委員会 編. 国試 116－第 116回医師国家試験問題解説書. 東京: TECOM; 2022.

学会発表

9. 丸山由衣, 小菌康範, 松廣綾, 東 栞, 松本さゆり, 大里貴子, 松本由佳, 数野香苗, 塩澤友規, 稲垣 中. COVID-19に対する意識と行動の調査 新型コロナウイルス恐怖尺度を用いて. 第60回全国大学保健管理研究集会 (横浜). 2022年10月19日.
10. Jin Z, Tsukamoto K, Usami Y, Sugai H, Miyao M, Shiozawa T, Takada M, Ito K, Takada H: Development and Evaluation of Training System for Reducing Sensory Discrepancies Using VR. EEE ICCSE 2022. Ningbo, China. 8/20/2022.

主な社会活動・学外の委員活動等

11. 横断型基幹科学技術研究団体連合 (横幹連合) 代議員
12. 日本認知症学会認定認知症専門医・指導医
13. 日本栓子検出と治療学会理事
14. 日本神経学会認定神経内科専門医・指導医
15. 日本内科学会認定内科医・認定総合内科専門医
16. 日本公衆衛生学会認定公衆衛生専門家
17. 社会医学系専門医協会認定社会医学系専門医・指導医
18. 形の科学会運営委員 (理事・事務局長)
19. 日本時間生物学会評議員
20. 日本宇宙航空環境医学会評議員

日置 俊次

所属：青山学院大学文学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_2/

研究成果の概要

芥川龍之介、宮澤賢治に関する単著論文を2本執筆し、発表した。また、短歌結社「かりん」編集委員として、詠草集配・選歌・校正など歌誌発行業務を行い、さまざまな会を開いている。高齢者の方々と協力して、誌面作りの仕事をしている。短歌創作と発表が高齢者の生き生きした生活に深く関与していることを確認しつつ作業を進めている。コロナ対策に気を使いつつ、青山善光寺等で定例歌会を開き、多くの高齢者の作品を読み、100歳を超える高齢者とも対話している。なお学生にも短歌の指導をし、学外コンクールに応募させ、受賞者を輩出している。今年度は、前田純孝学生短歌コンクールにおいて、学校特別賞を受賞した。この受賞は3年連続である。

学術論文

1. 日置俊次。芥川龍之介「蜘蛛の糸」から宮澤賢治「ひかりの素足」へ。青山語文 2023年3月。
2. 日置俊次。宮澤賢治論——「やまなし」から「ひかりの素足」へ——。青山学院大学文学部紀要 2023年3月。

短歌作品

3. ダルメシアンのダンス 「かりん」 2022年4月。
4. ウクライナ 「かりん」 2022年5月。
5. ゆまりの春 「かりん」 2022年6月。
6. 春の小径 「かりん」 2022年7月。
7. 大噴火 「かりん」 2022年8月。
8. ローレンツ収縮 「かりん」 2022年9月。
9. 紫夏 「かりん」 2022年10月。
10. 母の匂ひ 「かりん」 2022年11月。
11. リバースナマステ 「かりん」 2022年12月。
12. ゴールドシップ 「かりん」 2023年1月。
13. 眼を閉ぢて 「かりん」 2022年2月。
14. 主よみもとに 「かりん」 2022年3月。
15. ひまはり幻想 「短歌研究」 2022年5月。

米山 聡

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_6/

研究成果の概要

ステレオ画像相関法を用いて高張力鋼の切欠き薄板試験片のひずみ測定を行い、得られたひずみ分布および荷重値からくびれ後の応力ひずみ関係を逆問題解析により同定する方法を提案した。また、得られた変位場から物質座標系における対数ひずみを算出し、応力を算出した後に空間座標系の応力を得る手順を確立した。提案する逆問題解析法では、相当応力相当塑性ひずみ関係を一点ずつ順に決定する。そのため、モデルのパラメータ同定と異なりモデルに依存しない材料特性の同定が可能である。以上の方法を用いることで、ひずみ測定および荷重測定結果からくびれ後の応力分布を得ることができる。さらに応力3軸度の評価が可能である。

学術論文・著書・分担執筆等

1. Owaki, M. and Yoneyama, S., Visualization of the Internal Deformation Behavior of Rubber Under Sliding Contact Using X-ray Imaging and Digital Image Correlation, *Advanced Experimental Mechanics*, 7, 49-54 (2022).
2. Liu, J., Takeo, K. and Yoneyama, S., Water Absorption and Strain Rate Dependency of Compressive Strength of Carbon Fiber Reinforced Plastics, *Materials System*, 39, 3-7 (2022).
3. Obata, Y., Sekino, K. Takeo, K. and Yoneyama, S., Estimating Residual Stresses of Silicon Wafer from Measured Full-field Deflection Distribution, *Optics and Lasers in Engineering*, 148, 106781 (2022).
4. 米山 聡, DVCを用いた3次元変位・ひずみ測定の基礎, *非破壊検査*, 71(4), 150-154 (2022).

シンポジウム・講演・学会発表

5. Yoneyama, S. and Iizuka, K., J-integral Evaluation for Finite Strain Elastic-plastic Solid from Measured Displacements Using Digital Image Correlation, *The International Digital Image Correlation Society 2022 Conference* (Boston, November 7-10, 2022).
6. Taguchi, S., Takeo, K. and Yoneyama, S., A Numerical Laplace Transformation Method for Evaluating Stresses from Measured Strains in Viscoelastic Body Under

- Plane Stress Condition, The 12th International Conference on the Mechanics of Time Dependent Materials, 19 (Dallas, September 6-9, 2022).
7. Mitamura, H., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Evaluating the Effect of the Filler Amount on the Crack Growth Behavior of Natural Rubber and the Strain Distribution, BSSM 16th International Conference on Advances in Experimental Mechanics (Oxford, September 6-8, 2022).
 8. Tsujii, Y., Iketa, N., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Measurement Discontinuous Strain Around the Dissimilar Materials Interface Using Global Digital Image Correlation, BSSM 16th International Conference on Advances in Experimental Mechanics (Oxford, September 6-8, 2022).
 9. Shirane, R., Chinzei, S., Ushijima, K. and Yoneyama, S., Experiments and Simulation of Ductile Fracture Considering Damage History for High-Strength Steel, 15th World Congress on Computational Mechanics and 8th Asian Pacific Congress on Computational Mechanics, 2251 (Yokohama, July 31-August 5, 2022).
 10. Tsujii, Y., Iketa, N., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Measuring Strain Distribution Around Inclusions and Matrix Interface Using Global Digital Image Correlation, 2022 SEM Annual Conference and Exposition on Experimental and Applied Mechanics, #13258 (Pittsburgh, June 13-16, 2022).
 11. Sugimoto, R., Ikoma, S., Iizuka, K., Yoneyama, S., Ushijima, K. and Chinzei, S., Evaluation of Stress State and Fracture Strain of High-strength Steel Using Stereo Image Correlation, 2022 SEM Annual Conference and Exposition on Experimental and Applied Mechanics, #13259 (Pittsburgh, June 13-16, 2022).
 12. Mitamura, H., Iizuka, K. and Yoneyama, S., Evaluating the Effect of the Carbon Black on the Crack Growth Behavior of Natural Rubber Sheets with Large Deformation and the Strain Distribution, 2022 SEM Annual Conference and Exposition on Experimental and Applied Mechanics, #13262 (Pittsburgh, June 13-16, 2022).
 13. 米山 聡, 飯塚啓輔, 辻井悠希, 横山紗希, 3角形要素を用いたグローバルDICの定式化と繊維樹脂界面近傍のひずみ測定, 日本実験力学会分科会合同ワークショップ, No. 22, 6-7 (2022).
 14. 三田村帆高, 飯塚啓輔, 米山 聡, 充填剤の違いが天然ゴムのき裂進展挙動およびひずみ分布に与える影響の評価, 日本非破壊検査協会2022年度秋季講演大会, 101-104 (2022).
 15. 上野 慧, 飯塚啓輔, 米山 聡, 画像相関法における適切なサブセットサイズ決定方法の検討, 日本非破壊検査協会2022年度秋季講演大会, 111-114 (2022).
 16. 米山 聡, 鎮西将太, 牛島邦晴, 内藤純也, 飯塚啓輔, 画像相関法を用いた薄板金属試験片のひずみ測定と応力分布の評価, M&M2022材料力学カンファレンス,

OS0515 (2022).

17. 伊藤拓美, 飯塚啓輔, 米山 聡, 3Dプリント単層CFRPの弾性率に与える欠陥の定量的評価, 第47回複合材料シンポジウム, A108 (2022)
18. 神藤淳志, 後藤 健, 米山 聡, 飯塚啓輔, 高温水蒸気環境下での酸化物セラミックス複合材料の力学特性評, 第47回複合材料シンポジウム, C208 (2022). 320
19. 米山 聡, 飯塚啓輔, 鎮西将太, 牛島邦晴, 内藤純也, バーチャルフィールド法を用いた塑性応力ひずみ関係の逆問題解析—シミュレーションデータを用いた検証—, 日本実験力学会2022年度年次講演会, No. 22, 21-22 (2022).
20. 池田夏初, 辻井悠希, 飯塚啓輔, 米山 聡, グローバルDICを用いた異材界面近傍における変位・ひずみ分布の測定, 2022年度 非破壊検査総合シンポジウム, D-1 (2022).

社会活動・学外の委員活動等

21. 自転車産業振興協会新商品・新技術研究開発委員会 委員長
22. 相模原市中小企業研究開発補助金 外部専門家
23. Experimental Mechanics, Associate Technical Editor
24. Strain, Editorial Board
25. Journal of Strain Analysis for Engineering Design, Editorial Board
26. 日本機械学会学術誌 エディタ
27. 日本実験力学会理事
28. 製品安全協会キャンプ用テント専門部会委員長・フェースガード専門部会委員長

栗原 陽介

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_7/

研究成果の概要

呼吸機能の評価を行うシステムとして、睡眠時の無呼吸状態、慢性閉塞性肺疾患等々を評価するための呼吸機能評価システム、圧電セラミック型の呼吸計測デバイスの開発を行った。慢性閉塞性肺疾患の評価においては、呼吸時における肺の体積変動に伴う振動、および呼気時の肺音の周波数特性を考慮することで、慢性閉塞性肺疾患の診断において重要な指標である Gaensler¹ 秒率を推定する手法を提案した。またリハビリテーション関連評価で多く活用されている機能的自立度評価法 (FIM) における運動項目の得点を、在宅環境で簡易に推定する手法の開発にも取り組んだ。提案手法では、仰臥位から端座位への体勢変換を対象動作とし、対象動作時における体幹の回転運動における角度、角速度、角加速度をもとに、対象動作と FIM の関係を 9 次元回転運動空間におけるベクトルの時間変化として表すことで、FIM 値の運動項目を推定する。

学術論文 (査読あり)

1. Y. Hamada, T. Yoshida, Y. Kurihara, and, K. Watanabe, "Respirometry Rate Measurement by Pyroelectric Effect of a Piezo Sounder – Monitor and Alarm by Single Device –," *IEEE Sensors Journal*, vol.22, no.21, pp.21197-21208 (Nov. 2022)
2. M. Tada, T. Yoshida, Y. Hamada, Kurihara, Kobayashi, and K. Watanabe, "Application of Microwave Doppler Sensor for Remote Vibration Measurement," *IEEE Sensors Journal*, vol.22, no.20, pp.19975-19982 (Oct. 2022)
3. T. Yoshida, Y. Hamada, S. Nakamura, Y. Kurihara, and, K. Watanabe, "Spirometer Based on Vortex Whistle to Monitor Lung Disorders," *IEEE Sensors Journal*, vol.22, no.11, pp.11162-11172 (Jun. 2022)
4. M. Kohama, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara, "Classification of Unconstrained Respiratory States Utilizing Multidimensional Probability Distribution Based on Respiratory Frequency Information at Each Time Step," *International Journal of Affective Engineering*, vol.21, no.2, pp.93-100 (Jun. 2022)
5. T. Hirota, Y. Hamada, T. Kaburagi and Y. Kurihara, "Estimation of Functional Independence Measure Motor Score Based on a Trunk Control Model," *International Journal of Affective Engineering*, vol.21, no.2, pp.101-110 (Jun. 2022)
6. 浜田百合, 栗原陽介, "脳血流量の時間変動と局在特性を考慮した特徴量とノイズ除

去手法の提案－色彩環境下での知的作業課題判別－”,日本感性工学会論文誌, vol.21
, no.2, pp.239-245 (Apr.2022)

学会発表

7. R. Abe, Y. Hamada, Y. Kurihara, “Proposal of FIM value estimation method with emphasis on low frequency using mel spectrum”, Proceedings of the 11th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2023, (Mar. 2023). (発表予定)
8. K. Hasegawa, Y. Hamada, Y. Kurihara, “Using Granjer Causal Test Associated with Trait Anxiety to Estimate STAI Scores by Constructing a Brain Activity Independence Network”, Proceedings of the 11th ICIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2023, (Mar. 2023). (発表予定)
9. Koki Emoto, Yuri Hamada, Yosuke Kurihara: “Method for Estimating Gaensler’s Forced Expiratory Volume in One Second Percent Using a Built-in Stethoscope for Diagnosing Chronic Obstructive Pulmonary Disease”, The 11th IIAE International Conference on Industrial Application Engineering 2023, 2023 (2023年3月発表予定)
10. R. Sato, Y. Hamada, Y. Kurihara, “Dimensional Extension Algorithm for Generating Hyperspectral Images Considering Absorption Spectrum Characteristics,”2022 Joint 12th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 23rd International Symposium on Advanced Intelligent Systems (SCIS&ISIS), (Dec. 2022)
11. Koki Emoto, Yuri Hamada, Yosuke Kurihara: “Gaensler’s Forced Expiratory Volume in One-Second Percent Estimating Method by Unconstrained Bed-Type Sensing Device for Diagnosing Chronic Obstructive Pulmonary Disease”, The 9th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2022, (Sept. 2022).
12. R. Abe, Y. Hamada, Y. Kurihara, “Optimal Parameter Determination in Trunk Control Articulated Model by Applying Sequential Genetic Algorithm for mFIM Estimation”, The 9th IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing 2022, (Sept. 2022).
13. K. Hasegawa, Y. Hamada, Y. Kurihara, “Verifying the Effects of Cerebral Blood Flow Pulse Component and Dependence Probability of Brain Activity in the Prefrontal Cortex on Empathy Estimation Accuracy”, The SICE Annual Conference 2022, (Sept. 2022).
14. 藤谷瞳, 安部遼太郎, 浜田百合, 栗原陽介“仰臥位から端座位への体勢変換時における体幹回転運動合成信号を用いたFIM値推定”, 情報処理学会 第85回全国大会 (2023年3月 発表予定)

15. 佐藤美衣奈, 佐藤遼史, 浜田百合, 栗原陽介“スペクトル補正関数群に基づく積層特性を用いたRGB画像による高次元分光画像の推定”, 2023年電子情報通信学会総合大会 (2023年3月 発表予定)
16. 中村華子, 江本光希, 浜田百合, 栗原陽介“呼気流量に伴う肺音の周波数特性を用いた臥位状態での無拘束Gaensler1秒率推定手法の提案”, 2023年電子情報通信学会総合大会 (2023年3月 発表予定)
17. 諸澤菜々子, 浜田百合, 栗原陽介“心肺音混合モデルによる異常心音・肺音種別分類手法の提案”, 2023年電子情報通信学会総合大会 (2023年3月 発表予定)
18. 長尾泰典, 長谷川孝太郎, 浜田百合, 栗原陽介“言語刺激における言語レベルー反応モデルの構築およびNIRSによる脳血流量データからのTOEIC得点の推定手法”, 第18回日本感性工学会春季大会 (2023年3月 発表予定)
19. 関康太郎, 佐藤遼史, 浜田百合, 栗原陽介“輝度ベクトルの吸光スペクトル拡張関数空間への変換によるハイパースペクトル画像の推定”, 第18回日本感性工学会春季大会 (2023年3月 発表予定)
20. 小山芽梨乃, 浜田百合, 栗原陽介“独立ー相互作用脳活性度反応モデルによる色彩環境下での知的作業判別手法の提案”, 第18回日本感性工学会春季大会 (2023年3月 発表予定)
21. 八木匠, 塩田崇真, 浜田百合, 栗原陽介“深部体温および発汗量に基づく体温調整機能を考慮した排尿時刻予測手法の提案”, 第18回日本感性工学会春季大会 (2023年3月 発表予定)
22. 押久保昂矢, 長谷川孝太郎, 浜田百合, 栗原陽介“多重解像度解析を用いた特性不安の周波数特性抽出によるSTAIスコアの推定”, 第18回日本感性工学会春季大会 (2023年3月 発表予定)
23. 八幡和磨, 浜田百合, 栗原陽介“インパクト時におけるラインスキャン撮像モデルの構築および線形基底展開法によるゴルフボール初期状態推定手法”, 第18回日本感性工学会春季大会 (2023年3月 発表予定)
24. 塩田崇真, 浜田百合, 栗原陽介“摂取水分量および排尿量による体内水分収支を考慮しフォーラム(FIT2022) (2022年9月)
25. 安部遼太郎, 浜田百合, 栗原陽介, “FIM値推定のための遺伝的アルゴリズムを用いた体幹制御連節モデルにおける最適パラメータの推定”, 第21回情報科学技術フォーラム(FIT2022) (2022年9月)
26. 長谷川孝太郎, 浜田百合, 栗原陽介, “脳血流量に基づくグレンジャー因果を用いた共感性伝播ネットワークの構築による共感性推定手法の提案”, 第21回情報科学技術フォーラム(FIT2022) (2022年9月)
27. 江本 光希, 浜田 百合, 栗原 陽介: “慢性閉塞性肺疾患診断のためのLong Short-Term Memoryを用いた無拘束でのGaensler1秒率推定手法の提案”, 第21回情報科学技術

フォーラム(FIT2022) (2022年9月)

28. 塩田崇真, 浜田百合, 栗原陽介“ロジスティック関数による膀胱内蓄尿量モデルの提案”, 2022年電子情報通信学会ソサエティ大会 (2022年9月)
29. 佐藤遼史, 浜田百合, 栗原陽介, “高齢化に伴う視覚検査自動システム構築のため物質のモル密度に基づくスパース性を考慮した高次元分光画像推定手法のシミュレーション評価,” 第24回高齢社会デザイン合同研究発表会 (2022年9月)
30. 塩田崇真, 浜田百合, 栗原陽介“超音波センサの蓄尿量推移における膀胱体積変動モデルを用いた逐次誤差評価”, 第24回高齢社会デザイン合同研究発表会 (2022年9月)
31. 長谷川孝太郎, 浜田百合, 栗原陽介, “色彩環境下での脳血流変化におけるグレンジャー因果判定による作業判別法の提案”, 第24回 高齢社会デザイン研究会 (2022年9月)
32. 安部遼太郎, 浜田百合, 栗原陽介, “起き上がり動作の個体差を考慮した体幹回転軸合成波によるFIM値推定”, 第24回 高齢社会デザイン研究会 (2022年9月)
33. 江本 光希, 浜田 百合, 栗原 陽介: “努力性肺活量測定時における臥位の違いを考慮した無拘束Gaensler1秒率推定手法の提案”, 第24回 高齢社会デザイン研究会 (2022年9月)

学外の委員活動等

34. SICEオープンライフデータ技術専門委員会委員
35. 日本知能情報ファジィ学会知的制御研究部会幹事

ロペズ ギョーム

所属：青山学院大学理工学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_8/

研究成果の概要

高齢者の健康・快適な生活を支える情報技術（IT）として貢献が期待できるセンシング技術、情報処理技術とそれを活用するアプリケーションソフトウェア技術の研究開発を行った。今年度から、食習慣支援技術の他に、熱中症対策技術に関して取り組んだ。食習慣支援技術に関して、自然な食事環境において、骨伝導マイクロフォンを用いて食事行動を判別し、咀嚼の改善を促進するアプリを開発した。また、咀嚼意識改善への効果も示した。熱中症対策技術に関して、様々な暑熱環境下で、安静タスク、デスクワークタスクおよび、運動タスクにおいて、20代～60代の男女計51名の生体情報を計測し、温熱快適性の個人差に関する生理学的解析を行った。男女別および、50歳を境目の年齢別で、暑熱快適性の予測モデルを構築することで、「暑い感覚」の予測精度が向上することが分かった。本結果から、より個人に合った熱中症リスクの予測が期待できる。

国際会議プロシーディング（査読あり）

1. Nishiki Motokawa, Anna Yokokubo, Guillaume Lopez, "HydReminder-W: a bottle cap that listens to your heart to remind you to drink," the 16th International Conference on Health Informatics (HEALTHINF 2023) (16-18.2.2023). (Full paper)
2. Tahera Hossain, Yusuke Kawasaki, Kazuki Honda, Kizito Nkurikiyeyezu, Guillaume Lopez, "Toward Human Thermal Comfort Sensing: New Dataset and Analysis of Heart Rate Variability (HRV) Under Different Activities," International Conference on Activity and Behavior Computing (ABC2022), London (10/2022). (Regular paper) (Excellent paper award)
3. Tahera Hossain, Kizito Nkurikiyeyezu, Yusuke Kawasaki, Guillaume Lopez, "Toward the Prediction of Environmental Thermal Comfort Sensation using Wearables," the 2nd International Workshop on Citizen-Centric Smart Cities Services (CCSCS), Biarritz (6.2022).

シンポジウム・講演・学会発表

4. 元川錦, 横窪安奈, ロペズ ギョーム: 水分補給支援システムと行動変容検証, 情報処理学会 IoT行動変容学研究グループ第3回研究会(03. 2023).
5. 元川錦, 横窪安奈, ロペズ ギョーム: 人間情報に基づいた水分補給タイミング支援

システムと検証, 第43回人間情報学会オーラルセッション (12.2022).

6. 飯塚万葉, 横窪安奈, ロペズ ギヨーム: EARoma: 耳装着型アロマ放射制御システムの提案, 情報処理学会 第200回ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) 研究発表会 (11.2022)
7. 元川錦, 横窪安奈, ロペズ ギヨーム: HydReminder-W 生体情報を活用したスマートボトルキャップシステム, 情報処理学会 IoT行動変容学研究グループ第2回研究会 (11.2022).(Best Poster/Demo Award)
8. ホサイン タヘラ, 川崎 勇佑, 本多 一騎, 横窪 安奈, and ロペズ ギヨーム: 脈拍変動を用いた暑熱快適快適性予測, マルチメディア, 分散, 協調とモバイルシンポジウム (DICOMO2022), pp.888-892 (07.2022)
9. 蒲地遥, 大久保紗恵, 横窪安奈, ロペズ ギヨーム: 食事音を用いた食習慣改善システム, 情報処理学会 IoT行動変容学研究グループキックオフシンポジウム (04.2022).

社会活動・学外の委員活動等

10. 人間情報学会 理事幹事 (<http://www.ahi-soc.info/>)
11. 情報処理学会 IoT行動変容学研究グループ 主査 (<http://www.sig-bti.jp/>)

佐藤 敏彦

所属：青山学院大学大学院社会情報学研究科・特任教授

経歴等：<https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/contributors/h-satou-toshihiko>

研究成果の概要

本研究所との関連では、主に我が国の健康寿命の概念とその目的の普及に関連した活動を実施した。特に、今後の我が国の超少子高齢化社会において国民の保健・医療・福祉システムを維持していくためには、国民一人一人が、生涯においてスポーツや適切な運動が重要であることを認識し、疾病や障害予防に努めることが重要であるとの考えの下、その啓発と普及活動に努めた。その中で、スポーツ庁・大学スポーツ協会委託事業「大学のスポーツ資源を活用した地域支援事業」のプロジェクトマネージャ業務を行った。

学術論文・執筆

1. 佐藤 敏彦. 「我が国における健康づくり運動とその目標としての健康寿命延伸」. みんなのスポーツ 2022(6):12-14
2. 佐藤 敏彦. 「健康寿命の定義と算出方法」. 厚生労働省生活習慣病予防のための健康情報サイト e-ヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/hale/h-01-001.html> (2023年2月25日閲覧)
3. 佐藤 敏彦. 「平均寿命と健康寿命」. 厚生労働省生活習慣病予防のための健康情報サイト e-ヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/hale/h-01-002.html> (2023年2月25日閲覧)
4. 佐藤 敏彦. 「健康寿命のあり方に関する有識者研究会報告書」. 厚生労働省生活習慣病予防のための健康情報サイト e-ヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/hale/h-01-003.html> (2023年2月25日閲覧)
5. 佐藤 敏彦. 「健康寿命延伸プラン」. 厚生労働省生活習慣病予防のための健康情報サイト e-ヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/hale/h-01-004.html> (2023年2月25日閲覧)
6. 佐藤 敏彦. 「疾患横断的エビデンスに基づく健康寿命延伸のための提言（第一次）」. 厚生労働省生活習慣病予防のための健康情報サイト e-ヘルスネット <https://www.e-healthnet.mhlw.go.jp/information/hale/h-01-005.html> (2023年2月25日閲覧)

シンポジウム講演

7. 佐藤 敏彦. 「健康寿命延伸とウェルビーイング-いま我々は何をすべきか-」 青山学院大学Meet up in AGU 2022 @ SAGAMIHARA 2023年2月22日

社会活動・学外の委員活動

8. 佐藤 敏彦 渋谷区健康増進計画策定委員会 座長 2022年6月～
9. 佐藤 敏彦 厚生労働省 e-ヘルスネット 情報評価委員会 副座長 2007年6月～
10. 佐藤 敏彦 厚生労働省 厚生労働省「医療ニーズの高い医療機器等の早期導入に関する検討会」 委員 ワーキンググループ座長 2009年6月～
11. 佐藤 敏彦 内閣府消費者安全調査委員会 専門委員 2013年5月～

石井 慶子

所属：青山学院大学理工学部・助教

経歴等：<https://sites.google.com/view/keiko-ishii/resume?authuser=0>

研究成果の概要

新型コロナウイルスの流行に伴い、感染予防の知見を得る必要があったため、共同研究で呼気可視化計測を行った結果について、動画メディア等での発信を行った。生体侵襲性の低いがん治療法としてハイパーサーミアが期待されている。磁気温熱療法は、磁性ナノ粒子を患部に吸着させ高周波磁場を印加することでがんの治療を測るものであるが、発熱特性の詳細や、メカニズムは明らかになっていない。生体模擬寒天ファントム内に磁性ナノ粒子を混ぜ、発熱特性の調査を行った。自励振動ヒートパイプ内部流動について、流れ場と温度の同時計測を行った。磁性流体マイクロカプセルについて、強制流動場におけるクラスター形成様相を特定するため、可視化実験を行った。

著書・分担執筆

1. 情報を正しく選択するための認知バイアス事典 行動経済学・統計学・情報学 編, 監修：高橋昌一郎、著者、情報文化研究所（米田 紘康, 竹村 祐亮, 石井 慶子）、フォレスト出版 2022年12月16日（ISBN: 4866802103）

学術論文

2. Keiko Ishii*, Kosuke Kawayama, Koji Fumoto, Synthesis and evaluation of high thermal conductivity magnetic heat storage inorganic microcapsules simultaneously containing gallium and magnetic nanoparticles by sol-gel method, Journal of Energy Storage, Volume 59, 106426, 2023
3. Keiko Ishii*, Kazuki Ogura, Koji Fumoto, Optical visualization of the formation behavior of magnetic particle clusters in a forced convection field, Journal of Magnetism and Magnetic Materials, Volume 556, 15, 169433, 2022

国際会議プロシーディングス

4. Keiko Ishii, Yuya Otaka, and Koji Fumoto, Simultaneous Measurement of Temperature Distribution and Flow Inside a Pulsating Heat Pipe Using Temperature Sensitive Paint with in-situ Calibration, Joint 21st International Heat Pipe Conference and 15th International Heat Pipe Symposium, RMIT University, Melbourne, Australia, 5-9th, Feb. 2023.

5. Shunsuke TSUTSUMIUCHI, Keiko ISHII, and Koji FUMOTO, Basic research on Self-regenerated Bridge Type Heat Pipe, Joint 21st International Heat Pipe Conference and 15th International Heat Pipe Symposium, RMIT University, Melbourne, Australia, 5-9th, Feb. 2023.
6. Rikuto Shimoda, Keiko Ishii, and Koji Fumoto, Simultaneous measurement of two-dimensional temperature distribution and flow inside a single channel simulating pulsating heat pipe, Joint 21st International Heat Pipe Conference and 15th International Heat Pipe Symposium, RMIT University, Melbourne, Australia, 5-9th, Feb. 2023.
7. R. Kubota, K. Ishii, K. Fumoto, Effect of magnetic nanoparticle concentration on magnetic hyperthermia, 9th WORLD CONGRESS OF BIOMECHANICS, JUL, 10-14th, 2022. ONLINE

招待講演

8. Keiko Ishii, Generation of Multifunctional Capsules and visualization of Complex Fluid Flow Fields, International Congress on Pure & Applied Chemistry (ICPAC) Kota Kinabalu 2022, 24th, Nov. 2022.

シンポジウム・講演・学会発表

9. 久保田 竜平, 石井 慶子, 麓 耕二, 磁気ハイパーサーミアにおける生体を模擬した寒天ファントム内部での発熱評価, 第33回 バイオフロンティア講演会, 神戸大学, 2022年12月17日
10. 堤内 駿介, 石井 慶子, 麓 耕二, 自己再生ブリッジ振動型ヒートパイプに関する基礎的研究－熱輸送性能に及ぼす熱交換セクション比率の影響－, 日本機械学会 熱工学コンファレンス2022, 東大本郷, 2022年10月8日
11. 石井 慶子, 大野 淑子, 及川 麻衣子, 大西 典子, 呼気エアロゾルの可視化, 日本機械学会 熱工学コンファレンス 熱工学コレクション2022, 東大本郷, 2022年10月8日
12. 石井 慶子, 大高 裕矢, 麓 耕二, 自励振動型ヒートパイプ内部の流動や温度の可視化, 日本機械学会 熱工学コンファレンス 熱工学コレクション2022, 東大本郷, 2022年10月8日
13. 石井 慶子, 大高 裕矢, 麓 耕二, 自励振動型ヒートパイプ内部の気液流動と壁面温度分布の同時計測, 日本実験力学会 2022 年度年次講演会 2022年8月25日, 鳥取大学
14. 久保田 竜平, 石井 慶子, 麓 耕二, 磁性ナノ粒子を用いた癌の温熱療法の局所加温に関する検討, 第 59 回日本伝熱シンポジウム, 2022年5月18日～20日, 長良川国

際会議場

15. 上野 藍香, 石井 慶子, 麓 耕二, 血液熱交換用カテーテル形状に関する検討, 第 59 回日本伝熱シンポジウム, 2022年5月18日~20日, 長良川国際会議場
16. 石井 慶子, 小倉 一起, 麓 耕二, 磁性粒子含有マイクロカプセルの強制流動場におけるクラスター形成様相の解明, 第 59 回日本伝熱シンポジウム, 2022年5月18日~20日, 長良川国際会議場
17. 麓 耕二, 石井 慶子, 宮川 滉平, 自己再生ブリッジ振動型ヒートパイプに関する研究, 第 59 回日本伝熱シンポジウム, 2022年5月18日~20日, 長良川国際会議場
18. 下田 陸斗, 麓 耕二, 石井 慶子, 自励振動型ヒートパイプの流動を模擬した単流路の内部流動および 2 次元温度分布の同時計測, 第 59 回日本伝熱シンポジウム, 2022年5月18日~20日, 長良川国際会議場
19. 荻山 貴弘, 石井 慶子, 小方 聡, 仁科 勇太, 麓 耕二, グラフェンシート懸濁液の熱物性に及ぼす調整過程の影響, 日本機械学会 関東支部 第28期総会・講演会, 2022年3月14日(月)~15日(火), オンライン 若手優秀講演フェロー賞
20. 一野 瑠偉, 石井 慶子, 麓 耕二, 低伝熱速度を実現する複合材料の開発, 日本機械学会 関東支部 第28期総会・講演会, 2022年3月14日(月)~15日(火), オンライン
21. 日巻 雅喜, 石井 慶子, 麓 耕二, Self-rewetting 溶液中に生じる気泡微細化現象のメカニズム解明, 日本機械学会 関東支部 第28期総会・講演会, 2022年3月14日(月)~15日(火)

受賞

22. 石井 慶子, コニカミノルタ画像科学奨励賞 2023年1月
23. 石井 慶子, IEEEマンガプロットコンテスト2022 WIE賞2022年10月
24. 石井 慶子, 日本機械学会 奨励賞2022年4月

指導学生の受賞

25. 上野 藍香, 青山学院大学, IEEE student Branch Research Presentation Encouragement Workshop, Encouragement Award
26. 上野藍香, 青山学院大学, IEEEマンガプロットコンテスト2022 WIE賞
27. 日巻雅喜, 青山学院大学, 日本機械学会関東支部第27期総会講演会 若手優秀講演賞
28. 荻山 貴弘, 青山学院大学, 日本機械学会関東支部第27期総会講演会 若手優秀講演フェロー賞

社会活動・学外の委員活動等

29. 可視化情報学会誌 編集委員会 委員 2021年-
30. 日本機械学会 熱工学部門 出版委員会 委員 2022-2023年度
31. 日本伝熱学会第61期, 62期 協議員 2022-2023年度

その他

32. [International Women's Day 2022: Breaking the Bias](#) News Medical Life Science
Webサイトインタビュー記事
33. [漫画原作] [「僕☆とりプルE」](#), 原作：石井慶子, 上野藍香, 脚本：春日康徳, 作画：藤生ミノル, 発行所：丸善雄松堂, 2023年3月31日
34. 或る女性研究者の限界突破サバイバル生活、石井慶子, 日本機械学会若手の会 第5回オンライン若手技術者交流会, 2022年9月30日
35. 博士課程での受難と対策、石井慶子、立命館大学キャリアパス推進室セミナー、2022年9月7日
36. [切実に生きることの功罪](#), 石井慶子, 日本機械学会誌 マイメカライフ, Vol.125, No.1244, 2022
37. 「複雑流体の可視化」特集にあたって, 石井慶子, 小方聡, 可視化情報学会誌, Vol.42 No.164 2022年6月
38. 磁性ナノ粒子含有マイクロ粒子を用いた磁性流れ場の可視化, 石井 慶子, 小倉 一起, 川山 昂祐, 佐藤 亮, 麓耕二, 可視化情報学会誌, Vol.42 No.164 2022年6月

竹下 啓

所属：東海大学医学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_5/

研究成果の概要

高齢者も対象となる在宅や施設における医療・ケアは、医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員、療法士、介護士等の多施設多職種協働によって提供される。しかしながら、医療・ケアチーム、患者（サービス利用者）本人、家族等の間において、適切な合意形成が困難なことがある。そこで、在宅や施設における倫理的問題を同定し、解決を支援するための研究活動を継続した。また、遺伝医学におけるdata governanceに関する研究も行なった。

学術論文・著書・分担執筆等

1. Takeshita K, Nagao N, Kaneda H, Miura Y, Kinjo T, Takimoto Y. Report on the Establishment of the Consortium for Hospital Ethics Committees in Japan and the First Collaboration Conference of Hospital Ethics Committees. *Asian Bioeth Rev.* 2022;14(4):307-316.
2. Suzuki MY, Ohnuki Y, Unzaki A, Takeshita K. Can the Revised “Guidelines for Genetic Tests and Diagnosis in Medical Practice” Exterminate the Spector of Genetic Exceptionalism over Medical Records? *CBEL Report.* 2022;5(1):94-96.
3. Ohnuki Y, Takahashi K, Suzuki MY, Takeshita K. Possible Significance of a Café-style Event to Introduce Advance Care Planning for General Citizens. *Tokai J Exp Clin Med.* 2022 Dec 20;47(4):209-214.
4. Takeshita K, Nagao N, Dohzono T, Kamiya K, Miura Y. Ethical issues faced by home care physicians and nurses in Japan and their ethics support needs: A nationwide survey. *Asian Bioeth Rev.* (published online ahead: <https://doi.org/10.1007/s41649-023-00238-5>)
5. Suzuki MY, Ohnuki Y, Takeshita K. Genetic data governance in Japanese hospitals. *Asian Bioeth Rev.* (in press)
6. 竹下 啓, 長尾式子, 堂園俊彦, 三浦靖彦, 神谷恵子. 在宅医療・ケアに携わる専門職が直面している倫理的問題と望まれる倫理支援. *臨床倫理.* (in press)
7. 竹下 啓. 新型コロナウイルス感染症パンデミックでのトリアージをめぐる日本の医療界の議論. 土井健司, 田坂さつき, 加藤泰史 (編)「コロナ禍とトリアージを問う 社会が命を選別するということ」 pp87-115. 青弓社. 2022年5月.

8. 竹下 啓. 意思決定支援のガイドライン. 平原佐斗志, 荻野美恵子 (編) 「エンドオブライフケア すべての人の命とくらしのために」. pp71-72. 南山堂. 2022年7月.

シンポジウム・講演・学会発表

9. 竹下 啓. 病院・臨床倫理委員会と臨床倫理コンサルテーションをめぐる論点. 第34回日本生命倫理学会年次大会. 2022年11月20日 (オンライン)
10. 竹下 啓. 医療と福祉と美容の連携する上での倫理的課題と期待. 日本美容福祉学会第21回学術集会実行委員会. 2022年11月5日 (オンライン)
11. 竹下 啓. 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」とアドバンス・ケア・プランニング. 第87回日本泌尿器科学会東部総会 卒後教育プログラム. 2022年10月29日 (オンライン)
12. 竹下 啓. COVID-19パンデミックとトリアージ. 第3回神奈川県救急医学会学術集会. 2022年10月8日 (伊勢原)
13. 竹下 啓. コロナ禍と死生. 第27回日本臨床死生学会年次大会. 2022年9月18日 (東京)
14. 竹下 啓. 呼吸不全の死生. 第27回日本臨床死生学会年次大会. 2022年9月18日 (東京)
15. 竹下 啓. 緩和医療における感染症治療の位置づけ. 第27回日本緩和医療学会学術大会. 2022年7月2日 (神戸)

社会活動・学外の委員活動等

16. 北里大学白金治験審査委員会副委員長
17. 北里大学医学部医の倫理委員会委員
18. 慶應義塾大学医学部倫理委員会委員
19. 慶應義塾臨床研究審査委員会委員
20. 慶應義塾大学病院医師主導治験審査委員会委員
21. 公益財団法人生存科学研究所専務理事
22. 一般財団法人公正研究推進協会評議員
23. 日本臨床倫理学会理事
24. 日本生命倫理学会評議員
25. 生命・医療倫理研究会副会長
26. 臨床倫理編集委員
27. CBEL Report 編集委員
28. 生命倫理編集委員
29. 生存科学編集委員

佐野 智子

所属：城西国際大学福祉総合学部・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_9/

研究成果の概要

今年度は難聴や加齢性難聴の人々へのコミュニティによるサポートに関して実践的研究を行った。実践としては、オンラインを使用しての難聴当事者のピアサポートグループ「きこえカフェ」を実施し、オンラインで実施することの有用性と課題について検討した（科研基盤研究（C）課題番号19K02219）。また、デンマークにおける難聴者支援の取り組みのひとつであるボランティアによる「高齢者ピアサポート」に関して、現地視察の内容をもとに論文化した（科研 基盤研究（C）課題番号18K10617）。さらに、医療従事者向けの加齢性難聴者への理解と対応について研修会を実施し、難聴に関する理解を深めるための活動を実施した。共同研究者である長田久雄教授主宰の「難聴研究会」に継続的に参加し、難聴に対する人々の認知や難聴高齢者の心理、および難聴者への支援について、検討・研究を行っている。今後はさらに実践的研究の場を広げる予定である。

学術論文

1. 森田恵子・佐野智子・杉崎きみの・伊藤直子・奥山陽子（2022）デンマークの高齢者に対する難聴対策と日本の課題 –聴こえのボランティアによる高齢者ピアサポートの重要性. 日本応用老年学：16(1), 119-127.

シンポジウム・講演・学会発表

2. 勝谷紀子・佐野智子 「コミュニケーション時のマスク着用と難聴者への態度の関係」 日本心理学会第86回大会 2022年9月8日～9月11日 ハイブリッド開催
3. 佐野智子 「子どもおよび若年者の難聴・聞き取り困難への支援」公募シンポジウム（指定討論）日本心理学会第86回大会 オンデマンド
4. 佐野智子・勝谷紀子 「「きこえカフェ」の有用性と課題ーオンラインによる難聴者・聴覚障害者の自助グループの検討」 日本特殊教育学会第60回大会 2022年9月17日発表
5. 勝谷紀子・佐野智子 「漫画における聴覚障害者の描写の検討」日本特殊教育学会第60回大会 2022年9月17日発表

その他

6. 「難聴研究会」実施 2022/4/11, 6/16, 7/7, 8/15, 9/12, 10/1, 2022/1/24, 2/2
7. 佐野智子・森田恵子・菅野聡 県連医活委員会・城北病院HPH委員会主催「加齢性難聴の理解と対応」(2022/7/14, 7/28, 8/4, 8/18) 全4回オンライン学習会実施
8. 勝谷紀子・佐野智子 難聴当事者のピアサポートグループ「きこえカフェ」(主催：勝谷紀子) の実施 (2022/5/29, 6/19, 7/31, 8/28, 9/25, 10/16, 11/27, 12/18, 2023/1/28, 2/19, 3/19)
9. 桜久サロン参加 (桜美林大学大学院長田久雄研究指導修了者を中心とした継続研究を目的としたon-lineでの情報交換会) 「「加齢性難聴の理解と対応」研修の内容の紹介」2022年10月8日発表

長田 久雄

所属：桜美林大学大学院老年学研究科・教授

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_10/

研究成果の概要

難聴に対する人々の認知や難聴高齢者の心理、および難聴者への支援について、佐野研究員と共同研究を行っている。また、難聴に関する研究を推進するための研究会「難聴研究会」を主宰し、今年度は9回開催した。また、老年学専攻の修了生たちの情報交換のための桜久サロンを立ち上げ、月に1回老年学心理学・生涯発達・臨床心理学・健康心理学に関連する領域の最前線の研究を紹介し、意見交換をする場を提供している。

学術論文

1. Sumiyo Brenna, Therese Doan, Hisao Osada, Yumiko Hashimoto. Validation of the Japanese version of the quality of life-Alzheimer's disease for nursing homes. *Aging & Mental Health*. 2022.5.18.
2. 加藤佐千子・長田久雄、80歳以上独居女性高齢者における食物活動に対する認識, *日本食生活学会誌*, 第33巻1号, 5-18, 2022.

社会活動・学外の委員活動等

3. 日本応用老年学会副理事長
4. 日本老年臨床心理学会副理事長
5. 公益財団法人認知症予防財団理事
6. 社会福祉法人清水安三記念福社会理事

その他

7. 「難聴研究会」実施 (2022/4/11, 6/16, 7/7, 8/15, 9/12, 10/1, 2022/1/24, 2/27).
8. 県連医活委員会・城北病院HPH委員会主催「加齢性難聴の理解と対応」(2022/7/14, 7/28, 8/4, 8/18) 全4回オンライン学習会実施
9. 桜久サロン主催 (桜美林大学大学院長田久雄研究指導修了者を中心とした継続研究を目的としたon-lineでの情報交換)

平井 誠

所属：神奈川大学人間科学部・教授

経歴等：<https://professor.kanagawa-u.ac.jp/hs/human/prof05.html>

研究成果の概要

日本における高齢人口移動の動向を明らかにするための調査を継続して実施した。令和2（2020）年国勢調査の人口移動統計を用いて高齢人口の都道府県間移動の動向について分析した。また、本務校における研究プロジェクトの一環として、神奈川県における人口分布や人口構造の長期間変化（1920～2020）を分析した。学会活動としては、国際人口地理学会議（ICPG）東京大会の運営委員として、学会運営を担った。

学術論文・著書・分担執筆

1. Yasuo MATSUMOTO, Makoto HIRAI（2022）Association of Neighborhood Environment and Physical Activity of the Middle Aged and Elderly during the COVID-19 Pandemic. 『*Journal of Environmental Information Science*』 Vol2, pp.89-94.
2. 平井 誠（2023）「ライフサイクルと人口移動：高齢期の移動」 pp.396-397. 日本地理学会編『*地理学事典*』丸善出版，818ページ.

シンポジウム・講演

3. 平井 誠「地域人口から見る神奈川」神奈川大学人文学研究所研究会（於：神奈川大学みなとみらいキャンパス，2022年9月18日）。

学外の委員活動

4. 地域地理科学会 理事
5. 地理空間学会 評議員
6. 第11回人口地理学国際会議組織委員会 委員
7. 横浜市神奈川区 わが町かながわとっておき実行委員会 委員

井上 希

所属：国立社会保障・人口問題研究所・研究員

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_12/

研究成果の概要

2022年度は昨年度に引き続きジェロントロジー研究所のホームページの管理や研究所の紹介動画の管理、老年学に関連する研究発表を実施いたしました。本年度も世界的なCOVID-19の蔓延に伴い、発表予定の国際学会など多くの企画が中止あるいはオンライン開催に変更となりました。しかしながら、徐々に会議や学会の開催が増えており、来年度から対面開催に戻るものも多くございます。来年度はこれまで以上に研究報告の場が広がる可能性に期待をしつつ、引き続きジェロントロジーに資する研究を続けていきたいと存じます。本年度実施した論文執筆は主に日本学術振興会の科学研究費助成事業（科研）の一環のものであり、具体的には、米国の将来人口推計に関する研究です。また、個人研究で行っている市区町村合併の過疎地域への影響についての研究や、共同研究で行っている日本のエネルギー消費についての将来推計の研究についても前年度に引き続き実施しております。

学術論文・著書・分担執筆

1. 井上希, 小池司朗, 井上孝, (2022), 「IPUMS IHGISの概要」, 『ESTRELA』, (336), pp.48-51.
2. 井上希, 小池司朗, 井上孝, (2022), 「IPUMS TIME USEの概要」, 『ESTRELA』, (340), pp.52-55.
3. 井上希, 小池司朗, 井上孝, (2022), 「IPUMS HEALTH SURVEYS の概要」, 『ESTRELA』, (342), pp. 50-53.
4. 井上希, 小池司朗, 井上孝, (2022), 「IPUMS INTERNATIONAL の現状と課題」, 『ESTRELA』, (344), pp.48-51.
5. 井上希, 「ICPG2022にみる人口地理の動向(統計・センサス・将来推計)」, 『ESTRELA』, (345), pp.14-17.
6. 井上希, 小池司朗, 井上孝, (2022), 「IPUMS HIGHER EDの概要および総括」, 『ESTRELA』, (346), pp.50-53.

シンポジウム・講演・学会発表等

7. 井上希・松本茂・眞弓浩三, 「マイクロデータを用いた家計のエネルギー消費の将来推計」, 第74回日本人口学会.

8. 井上希・白川清美, 「教育現場における調査票情報の二次的利用の推進」, 「匿名データの利用推進」に関する研究会.
9. Nozomu INOUE and Takashi INOUE, “The patterns of population change by station area along private railway lines in the western suburbs of Tokyo: The period of 2015-2065,” 11th International Conference on Population Geographies.
10. Nozomu INOUE, “An Analysis on the Compatibility of Depopulated Area Requirements in Japan as an Indicator of the Risk of Becoming Uninhabited,” Southern Demographic Association 2022 Annual Meeting.
11. Nozomu INOUE, Shigeru MATSUMOTO, and Kozo MAYUMI, “A Future Projection of Residential Energy Consumption in Japan: Focused on the Effects of an Aging Population,” The 21st International Conference of the Japan Economic Policy Association.

主な社会活動・学外の委員活動

12. 日本人口学会 大会企画委員会 幹事
13. 日本人口学会 編集委員会 幹事
14. 第 11 回人口地理学国際会議組織委員会 委員
15. 青山学院大学 総合研究所 客員研究員

朝倉 匠子

所属：青山学院大学ジェロントロジー研究所・客員研究員

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_13/

研究成果の概要

2021 年半ばに自ら女性専用のオンラインサロンを立ち上げ、現在海外を含む約 120 人の 40 代、50 代、60 代、70 代（最高齢は 78 歳）の女性と Net とリアルで接している。オンラインサロンに参加するような知的好奇心が強く、各分野で活躍し、自分磨きに積極的な人間は健康だけではなく、多方面に自己投資を続けている。シルバーマーケットには今は一律のサービスしかないが、シルバーもかなりセグメントがある。よく観察し、自由な発想でアプローチしていけば、今までにない「人生 100 年時代」をリードするマーケットを掘り起こしていけるのではと考える。

集英社デジタル雑誌 Our Age 「キラキラの源」連載執筆

1. 5、6 月は東京・名古屋・大阪でリアルイベントを開催します！ 2022 年 5 月 17 日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/286763/>
2. 名古屋、大阪のランチトークショーは大盛況！ よく学び、よく遊んだ旅でした
2022 年 7 月 2 日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/286763/>
3. 第 7 波直前にハワイへ。帰国時に必要な PCR 検査やアプリをレポート 2022 年 7 月 31 日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/290422/>
4. フジヤマシスターズの「まいったネ 今夜」MV お披露目を開催します！ 2022 年 8 月 28 日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/293649/>
5. 完成した「まいったネ 今夜」MV、YouTube でご覧ください！10 月にはラジオにライブにトークショー、ぜひご参加くださいネ！ 2022 年 9 月 28 日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/296104/>
6. 初めて「子供食堂」をお手伝い。そこで感じた問題と素敵な出会い 2022 年 10 月 29 日。<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/298896/>
7. ミッキー・カーティスさんと共演決定、魯山人の器で料理教室、バレエのスーパー
スター・ガラ公演、と思いがけない展開に！ 2022 年 11 月 20 日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/301284/>
8. 「美背中」と「キュッとウエスト」の簡単トレーニング（実演動画）で昔のドレス
のファスナーが上がった！ 2023 年 1 月 25 日。
<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/308739/>
9. 韓国 No.1 スタイリスト、ソ・スギョンさんにご飯会&我が家に！フジヤマシスタ

ーズ「Valentine's Live」も盛り上がりました！ 2023年2月28日。

<https://ourage.jp/column/life/lifestyle/312719/>

朝倉匠子講演会 主催「朝倉匠子エイジング研究所」

10. 若々しく、美しく歳を重ねる極意。か茂免（名古屋）。2022年6月10日。
11. 若々しく、美しく歳を重ねる極意。藤次寺（大阪）。2022年6月11日。
12. 住空間とアンチエイジング。トーヨーキッチンショールーム（名古屋）2022年9月15日。

社会活動

13. トルコ&シリアチャリティー Jazz Live。Keystone Club 東京。2023年3月15日。

大西 典子

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=onishi-noriko>

研究成果の概要

超高齢社会に、地域包括ケアシステムに美容が貢献できるしくみを構築することをめざし、「美容福祉」「美齢学」の教育・研究・実践の構築と整理に努めてきた。特に美容を学問として成立させるための理論構築が重要であり、ジェロントロジーの一領域として整理することは重要であった。特にジェロントロジーが学際的であるだけでなく実践学であることが、実践学として構築すべき美容には重要と考えている。そこで予防と地域共生社会に貢献できる美容家を育成するための教育について整理し、実装研究にすすめられるように自治体や医療機関等との連携を継続的に進めている。

学術論文

1. 大西典子, 永松俊哉, 大野淑子, 五十嵐靖博, 及川麻衣子, 美齢学と美容福祉学の教育システムの構築, 山野研究紀要 第30号, 2022.

学会発表

2. 石井慶子, 大野淑子, 及川麻衣子, 大西典子, 呼気エアロゾルの可視化, 日本機械学会 熱工学コンファレンス 熱工学コレクション2022, 東大本郷, 2022年10月8日.
3. 加藤宏美, 大西典子, 高齢者の足爪トラブルと足爪のケアの一考察, 日本美容福祉学会第21回学術集会, 2022年11月5日.
4. 大西典子, 大野淑子, 久保田智弘, 山下博和, 美容福祉キャリア教育プログラムの導入実践報告, 日本美容福祉学会第21回学術集会, 2022年11月5日.

出版関係（共著）

5. 介護福祉士国家試験過去問題解説集2023 中央法規出版 2022年5月1日.
6. 22年度介護福祉士全国統一模擬試験 第1回 中央法規出版 2022年6月.
7. 22年度介護福祉士全国統一模擬試験 第2回 中央法規出版 2022年9月.

講演、市民講座

8. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齢講座⑩「ハッピーエンディング」2022年7月16日.
9. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齢講座⑦「生きるほどに美しくあるために～

効果的な地域の美容サロンの活用～」2022年12月17日.

10. 高齢者あんしん相談センター南大沢 介護予防講座⑩マスク生活の今知りたい美容の効果2022年11月18日.

社会活動・学外の委員活動等

11. 一般社団法人日本美容福祉学会 理事
12. NPO全国介護美容福祉協会 監査
13. 社会福祉法人多摩養育園 苦情解決第三者委員
14. はちおうじ人生100年サポート企業協議体にて連携事業の推進

及川 麻衣子

所属：山野美容芸術短期大学・准教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=oikawa-maiko>

研究成果の概要

徳島県美馬市で65歳以上の市民を対象に、メイク・ヘアアレンジ・ネイルケアの美容体験会を実施し、高齢者の化粧行動に着目した外促進施策に関する研究を行った。アンケート調査の結果、化粧行動が外出行動の促進につながることを示唆されたため、今後も規模を拡充しながら継続する予定である。美容体験会についてはNHK徳島でも紹介された。また、昨年から継続し他大学とICT、動画制作を活用した世代間・大学間交流による情報教育プログラムの開発、学会発表を行った。

講演・学会発表

1. 徳島県美馬市「人生100年時代」美と健康のまちづくりプロジェクト 「生きるほどに、美しく。人生100年時代の美齢学」講演会 2022年7月16日 徳島県美馬市地域交流センターミライズ
2. 第3回国際化粧療法医学会 特別講演「人生100年時代におけるケアネイルの可能性」 2022年10月21日 オンライン
3. 石井慶子, 大野淑子, 及川麻衣子, 大西典子, 呼気エアロゾルの可視化, 日本機械学会 熱工学コンファレンス 熱工学コレクション2022, 東大本郷, 2022年10月8日
4. 三田薫, 及川麻衣子, 教育DX推進のための授業技術・教材開発「動画製作と学校間交流を通じて学ぶ情報教育プログラム」 日本教育情報学会 第38回年会 十文字学園女子大学、オンラインのハイブリット2022年8月21日
5. 富田知子, 木村康一, 永松俊哉, 及川麻衣子, 難波礼治, 高齢者の介護予防と活動活性化を促す「セルフ美容プログラム」の提案と実施 ～地域住民サロンでの取り組み～ 第11回日本認知症予防学会2022年9月23日-25日 福岡国際会議場
6. 熊野龍司, 及川麻衣子, 徳島県美馬市における化粧行動に着目した外出促進施策に関する研究 第21回日本美容福祉学会2022年11月5日 オンライン
7. 富田知子, 望月美智子, 高橋雅子, 綾部輝子, 種岡祐子, 及川麻衣子, 木村康一, 永松俊哉, 地域住民サロンでのセルフ美容プログラムの取り組み～パーソナルテイストを知るコラージュの制作～ 第21回日本美容福祉学会2022年11月5日 オンライン
8. 大西典子, 永松俊哉, 大野淑子, 五十嵐靖博, 及川麻衣子, 美齢学と美容福祉学の教育システムの構築 山野研究紀要 第30号 2022
9. 埼玉県所沢市令和4年度元氣塾「おしゃれ身だしなみについて」2022年4月27日

10. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齢講座⑤「エイジングヘアケア～美しい髪とヘアスタイルを保つためのヘアケア～」 2022年5月28日
11. UR都市機構・ジェロントロジー推進機構・多摩市社会福祉協議会合同企画「ネイルケア～綺麗な爪を育てよう～」 2022年6月20日
12. 日本ケアメイク協会 化粧品訓練士ブラッシュアップ講習会 2022年9月4日 オンライン
13. 徳島県美馬市「人生100年時代」美と健康のまちづくりプロジェクト 美容体験会 2022年7月17日 美馬市地域共生交流施設 小星ベース
14. 国際化粧品療法協会 ケアネイル講座 2022年7月23日、30日、8月6日、8月27日
15. 八王子市視覚障害者福祉協会 「自分でできる美顔マッサージ」 2022年11月27日
16. 八王子市心身障害者福祉センター 「就職活動に活かせる美容教室」 2022年12月3日
17. 八王子学園都市大学「いちよう塾」美齢講座⑤「エイジングヘアケア～美しい髪とヘアスタイルを保つためのヘアケア～」 2022年12月17日

社会活動・学外の委員活動等

18. 「受刑者の出所前教育インプレッション指導」立川拘置所 2022年10月13日,12月13日
19. 全国介護理容美容福祉協会 理事
20. 日本美容福祉学会 理事
21. 日本化粧品医療学会 代議員

その他

22. 高齢者にメイクやネイルケア 美馬市で体験してもらおう催し | NHK 徳島県のニュース <https://www3.nhk.or.jp/lnews/tokushima/20220717/8020015001.html>

五十嵐 靖博

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=igarashi-yasuhiro>

研究成果の概要

前年度に引き続き心理学のメタ学問である理論心理学と、現行の心理学が抱える問題の解決に取り組む批判心理学の立場から、フーコー派ディスコース分析の研究方法論を採用して超高齢化社会における個人の主観性などの心的現象と社会や文化、政治経済などの外的諸条件の関係を探究した。特に20世紀末以来の新自由主義経済政策と心理学の関係に着目して、管理統制のツールとしての心理学の役割を新植民地主義や脱植民地主義、心理学の現地化などの視座から探究した。そうした研究によって得られた知見を、グローバルサウスの心理学者が主催した国際会議において発表し討議した。

基調講演

1. Igarashi, Y. (2022a). Reconsidering the issue of ‘what is critical psychology?’ :A view of a Japanese critical theoretical psychologist. Afro-Asian Critical Psychology Conference.

口頭発表

2. Igarashi, Y. (2022b). What is theoretical psychology? : A view from the history of theoretical psychology in Japan. The International Society for the History of Behavioral and Social Sciences, Cheiron's 54th annual meeting.

招待シンポジウムにおける研究報告

3. Igarashi, Y. (2022c). Western psychology imported into Japan from 1870s and critical psychology of Fukushima nuclear disaster. Bandung Critical Psychology Conference 2022.

大会実行委員会企画シンポジウムにおける研究報告

4. 五十嵐靖博 (2022) . 理論心理学からみた行動分析学と社会. 日本行動分析学会第40回大会

社会活動・学外の委員活動

5. (公社)日本心理学会 批判心理学研究会代表 2010～

6. International Society of Critical Health Psychology 運営委員 2011～2021
7. Awry: Journal of Critical Psychology (AJCP) 編集委員 2019～
8. Frontiers in Psychology 部門編集委員 2019～
9. 2020 Critical Psychology Conference in East Asia 組織委員会委員長
10. 2020 The Psychology of Global Crises Conference 実行委員

大野 淑子

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=ohno-yoshiko>

研究成果の概要

高齢になっても障害があっても衣服の着脱やおしゃれを楽しむことをあきらめない支援が必要である。重症心身障害者施設との関わりの中で、複数の利用者について、好みや着脱のしやすさについて工夫した衣服や服飾雑貨の製作・リフォームを行った。コロナ禍においてもオンラインで施設利用者や施設職員と繋がり、身体の採寸を一緒に行い着脱に関わる可動域や衣服の好み等についても聞き取りをしながら、衣服製作やリフォームを行うことができた。その経験からその後も継続的に衣生活支援ができるしくみの構築に繋がっている。その他、美容福祉・美齢学教育及び研究を推進している。

学術論文

1. 石井慶子, 大野淑子, 及川麻衣子, 大西典子, 呼気エアロゾルの可視化, 日本機械学会 熱工学コンファレンス 熱工学コレクション2022, 東大本郷, 2022年10月8日
2. 大西典子, 永松俊哉, 大野淑子, 五十嵐靖博, 及川麻衣子, 美齢学と美容福祉学の教育システムの構築 山野研究紀要 第30号 2022年

研究発表

3. 大西典子, 大野淑子, 久保田智弘, 山下博和, 美容福祉キャリア教育プログラムの導入実践報告, 日本美容福祉学会第21回学術集会 2022年11月5日

講演、市民講座・社会活動など

4. 大学コンソーシアム八王子「夏休みこどもいちょう塾」組紐教室 2022年7月23日
5. 八王子学園都市大学「いちょう塾」美齢講座「おしゃれでいきいきシニアファッション」2022年7月9日、12月10日
6. シニア元気塾ボランティア入門講座「美容福祉・おしゃれでいきいきシニアファッション」2022年10月25日
7. 第47回日本重症心身障害学会学術集会 島田療育センター・ファッションショー「みんなでつくる 一人ひとりの楽しみ方ーコンサートに出かけましょう!ー」及びユニバーサルファッション製作協力
8. 東京都立特別支援学校「身だしなみ講座」2023年2月21日

永松 俊哉

所属：山野美容芸術短期大学・教授

経歴等：<https://www.yamano.ac.jp/study/teacher/detail.php?t=nagamatsu-toshiya>

研究成果の概要

適度な運動を継続することは、身体のみならず心の健康に繋がる。これまで身体運動を活用した健康増進に関する研究に取り組んできた。特に、高齢者の健康づくりを狙いとして、日常生活の中で実施・継続可能な低～中強度の運動（レジスタンストレーニング・ストレッチング・ヨガ）の効用について検討した。今年度は小規模のフィールドワークおよび文献ワークを実施した。

執筆

1. 学校保健ニュース中学版「運動は心の機能を高め心の健康を守る」（2022）
2. 学校保健ニュース高校版「不安を感じているのは自分だけじゃない」（2022）

講演

3. 美齢講座「美しい歩き方を学んで体力アップ」八王子市いちよう塾講演（2022）
4. 推進員講演会「ウォーキングの健康効果」日の出町健康づくり講演（2022）
5. 「運動とメンタルヘルス」第22回日本抗加齢医学会 実地医家スキルアップセミナー（2022）

社会活動・学外の委員活動等

6. 日本体力医学会評議員
7. 杏林大学大学院国際協力研究科研究倫理審査委員会 委員
8. 公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団倫理審査委員会 委員
9. 一般財団法人 オレンジクロス倫理審査委員会 委員
10. 特定非営利法人 羽村市体育協会 理事
11. 公益社団法人 日本エアロビック連盟 理事
12. 公益財団法人 明治安田厚生事業団 理事
13. 羽村市スポーツ推進審議会 委員

SAM (丸山 正温)

所属：ネクストジャパン株式会社 代表取締役

一般社団法人 ダレデモダンス 代表理事

経歴等：http://www.gerontology.a01.aoyama.ac.jp/researchers/pf_21/

研究成果の概要

2016年より老若男女すべての世代にダンスの楽しさを伝えようと、音楽に合わせて体を動かす「ダレデモダンス」の普及をしております。私の従兄弟の岩槻南病院理事長である丸山泰幸院長に監修して頂きダンスプログラムを制作しました。ご高齢の方でも安全に継続してダンスに取り組んでもらえるよう構成されています。実際に岩槻南病院においては、ある一定期間の心臓リハビリテーションの過程を終了した、心臓に疾患を持つご高齢の患者さんにご協力いただきながら運動強度に関する調査も行っており安全面は担保されています。医学的な効果として我々が期待していることは、有酸素運動としての効果をはじめ、ロコモティブシンドロームや認知症の予防効果が挙げられます。ダンスの運動強度についてですが、我々の研究結果による医学的な数値としては、このダンスエクササイズは 4Mets (メッツ) 程度のレベルであるということが解りました。運動強度が 4Mets の運動の例としては、ラジオ体操第一や太極拳があります。監修をする上で注意している点は、ダレデモ踊れるダンスであること。小さな子供からダンス未経験の高齢者まで、老若男女楽しめるダンスプログラムとして安全性と運動性を兼ね備えた内容であることを重要視し検証しています。また、「ダレデモダンス」のワークショップに参加して下さった方々のアンケート結果をみても、自覚的運動強度として「楽である」～「ややきつい」と感じる範囲内で参加できていることが分かります。つまり、他覚的な所見だけでなく自覚的にも安全性と運動性を兼ね備えたダンスプログラムであると言えます。

著書

1. SAM. いつまでも動ける。一年をとることを科学するジェロントロジー— クロスメディア・パブリッシング 2022年4月1日

講演等

2. 埼玉県岩槻アクティブシニアワークショップ 2022年4月20日, 5月25日, 6月29日, 8月31日, 9月28日, 10月19日, 11月30日, 12月21日
3. 北海道釧路市民健康づくり事業 オンラインレッスン (釧路市立城山小学校とオンラインで結び、小学生対象にダンスレッスン) 於: 都内スタジオ 2022年9月1日

4. 埼玉県コバトン健康マイレージ PR大使 於: さいたまスーパーアリーナ (RIZIN 2022内) 2022年9月25日
5. 北海道釧路市民健康づくり事業 対面レッスン 於: 釧路市立城山小学校 2022年10月25日
6. 青山学院大学社会情報学部 スポーツ・エンターテインメントビジネス特別講義 於: 青山学院大学青山キャンパス 2022年10月27日
7. 大阪教員互助組合 ダレデモダンスワークショップ 於: 大阪府教育会館たかつガーデン 2022年11月12日
8. 公益財団法人 スペシャルオリンピックス日本 ダレデモダンスワークショップ 於: 名古屋高校体育館 2022年12月4日
9. NECライフキャリア主催 社員対象ハイブリットイベント「ジェロントロジーから学ぶ人生100年時代の働き方」講演 於: NEC本社ビル 2022年12月19日

社会活動・学外の委員活動等

10. 一般社団法人ストリートダンス協会 名誉顧問
11. 日本工学院専門学校 ミュージックカレッジダンスパフォーマンス科 トータルプロデューサー
12. 北海道釧路市観光大使
13. 埼玉県コバトン健康マイレージ PR大使
14. 京丹後市いきいき健康長寿応援大使

メディア出演

15. NHK-FM 埼玉「ひるどき!さいたま〜ず」出演 (1月)
16. 雑誌「サンデー毎日」インタビュー記事掲載 (2月)
17. 還暦記念出版「いつまでも動ける。」発売記者会見 (4月)
18. フジテレビ「ポップアップ!」出演 (4月)
19. Inter FM「RADIO DISCO」出演 (4月)
20. ソニー・ミュージック Web 媒体「OTONANO」インタビュー掲載 (4月)
21. TOKYO FM「Blue Ocean」出演 (4月)
22. J-WAVE「ALL GOOD FRIDAY」出演 (4月)
23. ラジオ日本「SWEET」出演 (4月)
24. TOKYO FM BMW 特番 出演 (4月)
25. 文化放送「大竹まこと ゴールデンラジオ!」出演 (4月)
26. フジテレビ「ポップアップ!」密着取材 (5月)
27. 週刊大衆 インタビュー記事掲載 (5月)
28. Inter FM「Golden Time Age CLUB」出演 (5月)

29. 文化放送「くにまる食堂」出演（6月）
30. 雑誌「栄養と料理」インタビュー掲載（6月）
31. WEB「Doctor Life Style」インタビュー掲載（6月）
32. WEB「キネヅカ」インタビュー掲載（6月）
33. TOKYO FM「ディアフレンズ」出演（6月）
34. 雑誌「壮快」インタビュー掲載（8月）
35. NHK テレビ「ひるまえほっと」出演（8月）
36. 日本テレビ「マツコ会議」出演（9月）
37. クレディセゾンオフィシャル Youtube 出演（9月）
38. WEB「楽天シニア」エクササイズ動画掲載（9月）
39. テレビ埼玉「コバトン健康ストレッチ」レギュラー番組スタート（10月）
40. 歯科業界専門求人サイト「クオキャリア」エクササイズ動画掲載（11月）
41. 埼玉新聞「埼玉県民の日」特集(2面・3面)掲載（11月）